

数学

<全体分析>

試験時間	90分	解答問題数	3題
------	-----	-------	----

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

誘導が多い出題形式なので、うまくその誘導に乗ることが大切である。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

前年はやや易化したが、本年度はまた時間内に完答するには到底厳しい問題の出題であった。

3は2002年度東京大学(後期)に出題された問題とほぼ本質的に同じ問題である。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	確率 数列	数学A 数学B	(3)では、 $Q(k)$ を $P(2k-1), P(2k), P(2k+1)$ を用いて表すところが解答のポイントである。 (4)では、まず $(2k+1)_{N+1} C_{2k+1}$ の和を求めるのがポイントである。	やや難
2	複素数平面 図形と方程式 積分法	数学III 数学II 数学II	F_1 を求めるには P_1 の座標を k_1 を用いて表すのがポイントである。	標準
3	四面体の体積 微分法	数学B 数学III	(2)では4つの四面体の体積の和として考えるとよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

どの問題も発想力、論証力が要求される問題であり、例年計算量も多いので、基本が身についたら過去問を徹底して研究し、数学的思考力を十分に養うようにしておくべきである。
また、どの問題も完答するのは難しいので、たとえば**1**の(1)、**2**の(1)、**3**の(1)などの基本問題を確実に解くことが合格への秘訣といえる。